

全学的にアクティブラーニングを推進していくためのワーキンググループが設置され、以下のような委員の方々にご尽力いただくことになりました。

それをうけて、不定期に「AL ニュースレター」を発行することになりました。

ALにかかわる情報を全学的に共有して、さらには、それぞれの先生型の授業改革の実践へとつなげていくためのきっかけになればと思っています。

今後、あれこれ、ご協力いただくことになるかと思いますが、よろしくお願いします。

平成27年10月2日

@@

平成27年9月24日 大学運営委員会

「アクティブラーニング AL 推進のための WG の設置について」

9月24日の大学運営委員会で設置が決まりました。

なお、本件は、教育・授業改革のための財政的支援プロジェクト一部として実行するためのWGです。

「AL 推進 WG の業務」

- ・ AL の情報収集と広報活動
- ・ AL 実施促進のための財政支援
- ・ その他 AL にかかわる案件

「委員」

学長指名により委員名

主査 海保学長

副査 長谷部教授（経営学部、企画・IR室長）

委員 石黒准教授（子ども学科）岡本教授（国際言語文化学科）

岡村総務課長

「教育改革のための財政支援」プロジェクトとして

○アクティブラーニングの講演会実施の補助

をいたします。

全学的あるいはキャンパスごとに開催していただくのが条件ですが、

今年度中、4件程度まで実施できる予算枠があります。

ふるって申し込みください。

すでに、八千代キャンパスから11月開催の提案が出ております。

先着順ですので、ALwg メンバー（長谷部、石黒、岡本、岡村）まで早めに申し込みください。

AL関連の基本図書6冊を石黒先生に選んでいただきました。
先生方のメールボックスに入れましたので、キャンパス内で回覧してください。

お手元に置いておきたい本がありましたら、八千代総務課・岡村課長までメールで
その旨、お伝えください。

ALの情報共有のための試みです。

「参考」

@@

- ・河合塾 2014 『「学び」の質を保証するアクティブラーニング—3年間の全国大学調査から』 東信堂
- ・溝上慎一 2014 『アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換』 東信堂
- ・小林昭文 2015 『アクティブラーニング入門（アクティブラーニングが授業と生徒を変える）』 産業能率大学出版部
- ・小林昭文ほか 2015 『現場ですぐに使える アクティブラーニング実践』 産業能率大学出版部
- ・西川純 2015 『すぐわかる！ できる！ アクティブ・ラーニング』 学陽書房
- ・松下佳代編 2015 『ディープ・アクティブラーニング』 勁草書房

東大駒場での活動を紹介します。

いずれ、見学会や講演会も企画してみたいと思っています。

@@

駒場アクティブラーニングスタジオ (KALS) は、教養学部・情報学環・大学総合教育研究センターのコラボレーションから生まれた、東京大学初の ICT (Information and Communication Technology) 支援型協調学習教室です。

ディスカッション・グループワーク・デスクトップ実験・メディア制作活動などの能動型学習に対応するために、授業によって自由に構成を変えられるようになっています。

また、タブレット PC やインタラクティブガラスボード、パーソナルレスポンスシステムなど最新の IT 環境を必要に応じて組み合わせてご利用いただけます。専任スタッフが、授業へのインテグレーションをお手伝いします。



ALの定義の一番広範なものは

「教員からの一方的な知識伝達型の授業でないこと」

のようです。

それなら、これまで自分でもやってきた、ということになります。

そんな現状を調査した結果が北海道大学から公表されていますので、紹介します。

近日中に本学でも、同じような調査をしてみたいと思っています。

「参考」

取り入れているアクティブラーニングの要素（北海道大学調査より）

- ① 学生参加型（クリッカーの利用、コメント・質問を書かせる、ミニレポート等） 55%
- ② 学生同士で共同作業（グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション） 60%
- ③ 教員や学生が課題を設定し、解決する（PBL、問題発見学習等） 36%
- ④ 反転授業 3%
- ⑤ フィールドワーク、体験学習、調査学習 32%